

特集にあたって

鈴木道雄*

従来, サイコーシス (psychosis) という用語は精神病と訳され, 神経症 (neurosis) の対立的な概念として, より重度の病態水準にある精神疾患を意味するものであった。しかし, 近年ではサイコーシスは妄想, 幻覚, 思考障害などから構成される症候群を指し, 従来の精神病とは異なる意味に用いられている。サイコーシスは, 特にその初回の発現 (初回エピソードサイコーシス) においては, 診断特異的なものではなく, 多くの診断転帰を取り得る状態である。また, 早期介入研究により, いわゆる at-risk mental state (ARMS) の概念が出現し, 軽度で閾値下とも言えるサイコーシスが注目されるようになった。さらに, 軽度のサイコーシス様症状は, 精神疾患とは診断されない一般人口においても, 少なからぬ頻度で認められることが知られるようになった。このように, サイコーシスはスペクトラムとして捉えられ, また統合失調症に限定されない疾患 (診断) 横断的な症状として認識されるようになったが, サイコーシスに関するさまざまな用語や概念は未整理の状態である。サイコーシスを構成するそれぞれの症状 (妄想, 幻覚, 思考障害など) の出現機序や病態生理の解明により, サイコーシスに関するより正しい理解が可能になると考えられる。

ところで, 臨床では, 脳器質・身体疾患, 物質関連障害, 解離症, 神経発達症, パーソナリティ障害などに出現する精神病 (様) 症状の診断や, それらと統合失調症との鑑別診断が問題となることが少なくない。また, 古くから遅発性パラフレニーとして知られる状態や, 近年では最遅発性統合失調症様精神病などと呼ばれる高齢発症のサイコーシスにおいても, まだ十分に解明されていない病態が存在する。本特集は, サイコーシス概念について現状における整理を行うとともに, 精神疾患全体を見渡しながら, あらためてサイコーシスの全体像と疾患個別の特徴を捉え直すことによって, サイコーシスに関する理解を深めて臨床に役立てることを目的としている。

* 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座 (☎ 930-0194 富山県富山市杉谷 2630)